

『ティン・カップ』 原題 TIN CUP 1996



映画批評

『ティン・カップ』 原題：TIN CUP 1996

～純粋一途なプロゴルファー、ロイの究極のスイング

塚田三千代 (翻訳・映画アナリスト)

2014/6/23 (C) m. tsukada.

ゴルフのスイングを真摯に考えさせる映画である。

主人公“ティン・カップ”こと、ロイ・マカヴォイは、テキサス辺境地のゴルフ場でレッスン・プロをしながら、ゴルフのスイングを詩的に捉えている。日暮れに練習場スタッフを相手に賭事をするのも日課らしい。その日は精神分析医グリズウッド博士がレッスンに来ることになっている。

本映画には、博士にゴルフ・レッスンを始めたことがキッカケとなって、地区予選を突破してついに全米オープン・ゴルフ大会に出場して優勝を目前にするまでのロイのパフォーマンスと人間ドラマが描かれている。全米オープンの開催時期は暑さと高湿度、強風と雨の中での厳しい競技となる。容赦せぬ4日間で全 72 ホールを、プロ・アマが優勝を目指してゴルファーとしての手腕を競い合うのである。今年の優勝候補はツアー・プロ公認のデービッド・シムズ。彼はロイの旧友であり恋敵である。以前はロイの方が優位であったが今のロイはデービッドを追いかける立場にいる。

ゲームの世界は勝負の世界。勝負どころで賭けてみるのもその世界かも……。

プロとアマのゴルファーが同じ基準で競える醍醐味のあるのが全米オープンである。

最終日となる大会 4 日目。ロイは優勝の要となる 18 番ホール 565 YARDS PAR-5 で、セカンド・ショットを 3 番ウッドでグリーンをねらって打つ。池越えさせてグリーンに 2 オンを狙う。ロイにとってはイーグルでもパーでも、取れたら優勝できるからだ。だが、池ポチャするリスクは遠に大きい。優勝賞金獲得か、不朽の名声か。ロイはキャディが止めるのを押し切って、直に 2 オンを狙う。ロイの習癖は決して安全策のレイアップをしないことだ。2 オンさせる自信があるからこそなのだ。

デヴィッドはショットをきざみ、ロイはショットに懸けて勝負にでる。自分を信じ自分を試すチャンスを求めて立ち向かう。ロイのゴルファー魂を見せつけられるのは、全米オープン 4 日目の競技である。

映像はもちろんだが、どのセリフもゴルフの極意をよく伝え、本映画の文化的価値を大いに高めている。

映画製作にあたり、ゴルフ通のロン・シェルトン監督はゴルフ技能の高い数人のプロゴルファーに映画出演を依頼した。その中に現在、世界メジャー制覇を達成して、なお全米マスターズで活躍中のフィル・ミケルソンの姿も見える。プロに転向したばかりの細身で若々しいミケルソン自身が出演している。

ゴルフ文化が見えてくる。

本映画には、言葉と映像の両面から推奨できる必見シーンが 2 つある。第一はロイが自分のスイング理論を語るシーンである。ロイはじつに詩的な言葉でスイング順序を語る。そして、究極のゴルフは“Grip it and rip it.”(*)だと言う。次は映画のクライマックスに登場する全米オープン・ゴルフ大会のシーンである。優勝を目前にしてロイはリスクをものせず敢えて 3 番ウッドで池越えショットに挑戦する。この一部始終をカメラが映し出し、テレビのコメンテーターとアナウンサーが熱気あふれる言葉でその状況を伝える。ゴルフの魔力に囚われたロイは極意のスイングに挑む。スコアは問題でない。観客席から落胆と歓声のどよめきが交互に起こる。ゴルフ文化の深さを知らされる必見すべきシーンである。

映画セリフに見えるゴルフ英語

【1】 ゴルフ・レッスンを受けにきたグリズウッド博士 (Dr. Griswold) に、ロイ・マカヴォイ (Roy McAvoy) がゴルフの極意を語っている。 (*日訳: m.tsukada)

Roy: You mean, “What is The Golf Swing,” by Roy

McAvoy?

ロイ・マカヴォイの「ゴルフ・スイングとは」か？

I think of the golf swing as a poem. The opening phrase
of the poem will always
be the grip.

ゴルフのスイングは詩のようなものだ。詩の出だしはいつもグリップだ。

The hands unite to form a single unit by the simple
overlap of the little finger.

小指をかけて両手を一つに一体化する。

Lowly and slowly the club head is led back, pulled into
position not by the hands,
but the body, which turns shifting weight to the right
side without shifting balance.

低くゆっくりとクラブヘッドを手でなくボディターンで後ろへ引き、バランスを崩さずに右へウエイト・シフトする。

Tempo is all, perfection untachable, as at the top of the
swing, there' s a
hesitation, a little nod to the gods. To the gods that he
is fallible.

That perfection is unattainable.

テンポが大切だ、完全でなくていい。スイングの頂上で、一瞬、神に祈る。人間は過ちを犯すからね。完全なんて無理。

Weight shift to the left pulled by the powers in the
earth, it's alive, this swing,
and a sculpture, and down through contact striking the
ball crisply with character.

大地の力に引っぱられて左にウエイト・シフト。生き生きとしたこのスイングは彫刻のよう。ダウンスルーし個人的で軽快にボールを打つ。

A turning fork goes off in your heart, your balls, such a
pure feeling is the
well-struck golf shot. Then the follow-through to finish
always on line.

心の中に振波が伝わる。この純な感覚がナイス・ショットの感覚だ。流れるようなフォロー・スルーはフィニッシュまでいつも変わらず線上を通る。

The reverse-C of the Golden Bear, the steelworkers'
power and the brawn of
Carl Sandburg's, Arnold Palmer! And the unfinished
symphony of Roy McAvoy.

ジャック・ニクラウスは逆Cフォーム。カール・サンドバーグの詩のような鉄鋼労働者の力強さと腕力は、アーノルド・パーマ!

ロイ・マカヴォイのフォームは未完成交響曲。

I have a short follow-through. It has an unfinished look.

Some say it's the

easiest way to play in the winds of west Texas. Some

say it's because I never

finished anything in my life.

おれのフォロー・スルーは中途半端だ。ここ西テキサスの風の中でプレーし易いように。あるいはおれの生き方が中途半端だからか。

You can decide. But the point is every finishing position

is unique.

That's what the golf swing's about. It's about gaining

control of your life and

letting go at the same time.

フィニッシュは自分で決める。ともかくフィニッシュの位置はユニークでよい。それがゴルフ・スイングというものだ。自分を自由自在にして同時に解放する。

There's only one other acceptable theory about how to

hit the ball.

Grip it and rip it.

ボールの打ち方にはもう一つ極意がある。ボールをぶっ叩け。

Just waggle it. Waggle it and let the big dog eat. The driver the #1-wood.

ちょっとワググルする。ワググルしてビッグ・ドッグに食べさせる。ビッグ・ドッグは、1番ウッ드의ドライバーのことだ。

All woods are. The driver's known as the big dog. I'm just saying let him loose.

ウッドだけだ。ドライバーはビッグ・ドッグ。犬を放せと云ったよな。

Let it rip, let the big dog eat.

ボールをぶっ叩いて、犬に食べさせる。

Yes, that's why I love it. If you hit one good shot and a tuning fork rings in

your loins... and you can't wait to get back.

そう、だから最高ののさ。1本ナイス・ショットを打って、腹部にじんときたら、もう止められない。(* a tuning fork rings = 音叉が鳴り響く)

【2】全米オープン・ゴルフ大会で見たマカヴォイの究極の스팅とは... ?

予選を勝ち抜いて最終決戦になったロイ・マカヴォイは、池越えショットを3番ウッドで直にピンを狙う。オンしたボールは強い横風に流されて池に戻ってしまった。最後のボールになるまで打ち続け、ついにオンしてホールインしたが、優勝チャンスを逃してしまった。

【映画情報】

1996年9月14日公開

製作国: 米国 言語: 英語

配給: ワーナー・ブラザーズ

監督: ロン・シエルトン

脚本: ジョン・ノーヴィル / ロン・シエルトン

俳優(登場人物)

ケビン・コスナー (ロイ“ティン・カップ”マカヴォイ) *ティン・カップは愛称

レネ・ルツ (精神科医モリー・グリスウォルド博士、ロイの恋人)

ドン・ジョンソン (PGAプロゴルファー協会認定のプロゴルファーで、ロイの学友で恋敵のデービッド・シムズ)

チーチ・マリン (親友でキャディーのロミオ・ポーザー)

リンダ・ハート (ロイの元恋人ドリーン)

ジャンル: ドラマ(スポーツ/ゴルフ)
